

「美術」を展示することを展示する。
「美術館」を展示する。
たぶん、それは不可能。

±3
PRESENTS

ナツノカモ

（構成作家・
演出家・
ナレーター）

実験公演

プラスマイナス3センチの笑い

出演 ナツノカモ（構成作家・演出家・ナレーター）
日時 9月23日（日）午後2時
会場 当館・企画展示室内
入場料 1000円（要・事前申込、詳しくは裏面に）
対象 小学生以上（未就学児童不可）
企画・運営 土3事務局

言わずもがなを
あえて問う。

美術館で笑う。
世の中を考える。

<1正・誤・表>

美術館とそのコレクションをめぐるプログラム

2018年9月6日（木）～9月24日（月・祝）

休館日 | 9月10日（月）・18日（火）

開館時間 | 午前9時30分～午後6時（観覧券の販売は午後5時30分まで）

観覧料

- ・一般 200円（20名以上の団体160円）
- ・大学生・高校生 150円（20名以上の団体110円）
- ・中学生・小学生 100円（20名以上の団体70円）

*チケットは、コレクション展Ⅱ「LANDSCAPE 水土の作家 × NCAM コレクション」と共通です

*土・日・祝日は中学生・小学生無料

*障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方、および一部の介助者は無料（受付で手帳をご提示ください）

新潟市美術館
Niigata City Art Museum

正誤表は、とても不安定で、動的なものです●いずれかを「正しい」とか「間違っている」と定めているようで、不意に更新され、複数の版が互いに矛盾します●原本から取り紛れてしまえば、それが何に対応していたか、分からなくなることもあります●美術と美術館のありようは、この正誤表と通じ合うのではないのでしょうか●これまで展示の機会がなかった所蔵品の展示や、他者の「大切なもの」について考えるワークショップなどのプログラムを通じ、もろもろの価値・判断・状況の「不安定さ」を観察します●

《正・誤・表》

美術館とそのコレクションをめぐるプログラム

●新潟市美術館コレクション「価値と評判」| 当館の所蔵品の中には、展示や他館への貸出の機会がほとんどなかったものもあります。理由はさまざまですが、学芸員も人間ですから「何となく」ということあったかもしれません。今回は「何となく」抜きで、お見せしていなかったものを並べます。

●作品の「荷」姿 | 次期会場（埼玉県立近代美術館）への巡回のため、梱包された前回企画展「阿部展也 あくなき越境者」の出品作の荷姿を、そのまま「展示」します。初日9月6日（木）だけの限定です。

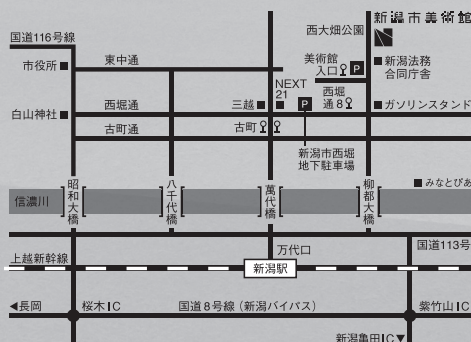
●実験公演「プラスマイナス3センチの笑い」

緻密に分解され、再構築される笑い。微妙にズれていく、語りの世界。気鋭の才能が、「笑い」の外側と内側の間で綱渡り。美術館で笑う、考える。

出演 | ナツノカモ（構成作家・演出家・ナレーター）
日時 | 2018年9月23日（日）午後2時～（約60分）（約90分）
会場 | 当館・企画展示室内
企画・運営 | ±3事務局
対象 | 小学生以上（未就学児童不可）
入場料 | 1,000円（要・事前申込、定員100名、観覧会観覧料とは別料金）
申込方法 | 「±3事務局」まで、直接お電話頂くか、「お名前・ご希望枚数・ご連絡先」を明記したメールをお送りください。確認後、折り返しご連絡を差し上げます。なお、入場料は当日精算となります。
*メール | pm3.rakugo@gmail.com
*電話 | 070-4368-0978

●同時開催の展覧会 | コレクション展Ⅱ「LANDSCAPE 水士の作家×NCAMコレクション」
～2018年12月2日（日）
*コレクション展ギャラリートーク：9月15日（土）午後2時～（約30分、要・観覧券）
*ふれあい美術館ガイド（美術館協会ボランティアによるコレクション展のご案内）
9月16日（日）午前11時～（約30分）集合場所：当館エントランスホール（要・観覧券）
*ギャラリートーク、ふれあい美術館ガイドの上記以外の日程は、当館WEBサイトをご覧ください

●新潟市新津美術館の展覧会 TEL:0250-25-1300
「北欧の陶芸家 リサ・ラッソン展 暮らしを愛するすべての人へ」
2018年9月1日（土）～11月11日（日）



●交通のご案内
・バスで（新潟駅万代口バスターミナルから）
[B1 萬代橋ライン (BRT)] など乗車約10分
→バス停「古町」下車→徒歩約12分（約860m）
*「古町」でとまるバスは、もっとも便数が多いです。
・タクシーで 新潟駅万代口から約10分
・お車で越えしの場合、「新潟市西堀地下駐車場」をご利用の方は60分無料券をお渡ししています。

新潟市美術館

Niigata City Art Museum

〒951-8556 新潟市中央区西大畑町 5191-9
TEL: 025-223-1622 FAX: 025-228-3051
www.ncam.jp f www.facebook.com/ncam.tsunagaru

*展示やイベントの内容などは変更されることがあります。詳しくはWEBサイトで。

●前川ごのみ | 当館の竣工（1985年）当時から伝わる「備品」を展示します。建築家・前川國男の「好み」を伝える家具や什器の紹介です。

●ワークショップ展示「わたしたちのたからもの」
自分／他人の「大切なもの」について、借りる／貸す、話を聴く／説明する、運ぶ、展示する、返却する、という一連の流れを体験するプログラムの結果を展示します。

●特別展示「新潟古町六番町 喫茶店・白十字の記憶」
2014 年秋、70 年近い歴史を閉じた老舗喫茶店「白十字」の店内を飾っていた抽象画連作。それは、燕市に生まれ、サンパウロで亡くなった画家・廣田健一（1932～2004）の作品でした。一人の市民が解体現場から偶然譲り受けた、街の「記憶のかけら」を紹介しします。
……そのほか、詳しくはWEBサイトで！

●シリーズ・レクチャー「美術と世の中、とか外」

会場 | 当館・企画展示室内（事前申込不要、要・観覧会観覧券）

○第1回「いかがわしい文化と、文化のいかがわしさについて」

講師 | 越智敏夫さん（新潟国際情報大学教授、現代政治理論）
日時 | 2018年9月9日（日）午後2時～（約90分）

1961 年愛媛生まれ。深い学識と、美術・音楽からプロレスまで、広すぎる趣味の双方を踏まえながら、アツクシャープに、時にディープに世の中を問う政治学者。彼の話なら面白い。FM PORT「オチ付け！ニッポン!!」でもおなじみの越智教授が、ついに新潟市美術館に登場。著書『政治にとって文化とは何か 国家・民族・市民』（ミネルヴァ書房）、共著『現場としての政治学』（日本経済評論社）など。

○第2回「大正ボーイ・藤田嗣治は、昭和の戦争をどう描いたのか」

講師 | 河田明久さん（千葉工業大学教授、日本近代美術史）
日時 | 2018年9月16日（日）午後2時～（約90分）

1966 年大阪生まれ。今や戦争画研究の第一人者。彼の話なら面白い。大正ボーイ・藤田嗣治は、意外にも岸田劉生より年上でした。できることもできないこともある人間としての画家の生理と、クールな社会史的視点という、情・理の両面から、戦時美術の「分際」をネンゴに論じます。共著『戦争と美術 一九三七～一九四五』（国書刊行会）、編著『日本美術全集 第18巻 戦争と美術』（小学館）など。

○第3回「美術館は外の声にどう向き合うか」

講師 | 前山裕司（新潟市美術館館長、近・現代美術）
日時 | 2018年9月22日（土）午後2時～（約90分）

1953 年東京生まれ。埼玉県立近代美術館の開設準備室から、サイタマひとすじ 37 年。いろんなことがありました。2018 年 4 月に新潟市美術館 9 代目館長に就任。「人生にこんなことがあるのか」クラスの嬉しかったこと（面白い）、斜め上からのトラブル（恐ろしい）、そして美術館は、世の中からいかなる場所を与えられ、世の中にいかなる場所を提供しているのか。あれやこれやを、ざっくばらんに語ります。

○第4回「細かすぎて（あまり）報道されなかった平成の美術の動き」

講師 | 藤井素彦（新潟市美術館学芸員、日本近代美術史）
日時 | 2018年9月24日（月・祝）午後2時～（約90分）

1967 年山口生まれ。1990 年代から現在までの 30 年間の美術史は、成立するのか。しないとすれば（多くの人が関心を持たないとすれば）美術史は（少なくとも歴史記述の可能性としては）終わっているのか。まだまだ語られていませんが、この時代の美術が、大きく動いたことは確かです。「良い・悪い」や「好き・嫌い」は抜きで、明らかな事実をもとに、美術と美術史の「変わりやすさ」と「変わりにくさ」を考えてみます。